

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	さくら一む二十四軒			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 15日 ～ 2025年 9月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 15日 ～ 2025年 9月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 31日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体幹・バランス・協調運動など、身体の基礎づくりを目的に、専門的視点を取り入れた運動遊びを実施しています。楽しさを軸に取り組むことで、姿勢保持や手先の操作性、集中力など、学習や生活面につながる力を育む支援ができています。	一人ひとりの発達段階に合わせ、難易度を調整したプログラムを提供しています。取り組みの様子やできた経験を振り返り、成功体験を積み重ねられるよう支援しています。また活動前後の見通しを持ち、主体的な参加を促しています。	評価方法の工夫により、支援前後の変化を可視化するとともに、家庭や学校生活での成果につながるよう連携を強化していきたいです。児童の将来的な自立を見据え、日常生活動作や移行支援にもつながる運動支援の充実を図ります。
2	アセスメントをもとに、子ども一人ひとりの特性や課題に応じた個別支援を行っています。活動への参加のしやすさや、自信を持って取り組める場面を設定し、意欲と成功体験の積み重ねにつながっています。	支援のねらいを明確化し、視覚支援や環境調整を行うことで、理解しやすい活動を行っています。支援後には、小さなできたことも言語化しながら自己肯定感へつなげています。また、保護者との情報共有を丁寧に行い、家庭での様子や困りごとを支援に反映しています。	評価結果の活用をさらに進め、支援効果の見える化ができるよう取り組みたいです。学校や関係機関との連携を強化し、学習面・生活面での課題にも一貫性のある支援を行い、将来的な社会参加を見据え、個々の強みを伸ばしながら自立へつなげる支援を行います。
3	外出イベントや調理活動など、実体験を通して社会性を育む支援を取り入れています。公共の場でのマナーや集団での協力、役割意識などを学べる機会を提供し、社会参加への意欲や自信につながっています。	行き先でのルール確認や見通し提示を行い、安心して取り組める環境を整えています。調理活動では、役割分担や手順の理解、衛生面の意識、食への興味を高める支援を行い、生活力の向上にもつながっています。また活動後の振り返りを通じて、できたことを共有しています。	地域との関わりを増やし、様々な社会体験につながる外出支援を行いたいです。活動のねらいと成果を整理し、発達段階に応じた社会参加の視点を強化していきたいです。将来の自立や移行支援につながる活動を行っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等サービスの利用人数が少なく、同年代との関わりが持ちにくいです。	児童発達支援の利用割合が高く、放課後等サービスの受け入れ枠が十分に確保できていないです。その結果、同年代との交流機会が増やしにくい状況となっています。	他事業所との合同活動や地域活動への参加を計画し、年齢の近い友達との関わりを増やせるよう取り組んでいます。
2			
3			